

第13回天ヶ瀬ダム景観検討委員会

議事概要

- 開催日時： 平成22年1月21日（木） 14:00～16:00
- 開催場所： 宇治公民館 第一会議室
- 出席者： 近藤 公夫委員長 奈良女子大学 名誉教授
山本 哲治委員 宇治商工会議所 会頭
北村 善宣委員 社団法人 宇治市観光協会 副会長
池本 甫 委員 財団法人 宇治市文化財愛護協会 理事長
中村 英一委員 宇治川漁業協同組合 代表理事組合長
中野 隆文委員 京都府 山城北土木事務所長
大関 弘之 宇治市理事（代理出席）

■委員からの主な意見

①委員会規約について

- ・規約の変更点について異議なし。
- ・池田先生の後任になり得る方を、近藤先生と相談しながら選定し、次回委員会で承認を受けることについて異議なし。

②委員会の経緯について

- ・（左岸工事用道路について）護岸の石積の試験施工はしないのか？塔の島の石積と整合性を持たせるべき。このあたりは、宇治川に残された唯一の渓谷であるため、自然石を積んだ石積を是非やっていただきたい。
- ・地域住民の意見もくみ上げて新しい橋、兩岸の工事用道路を作っていくということをどのように考えていくのか。
- ・コンセプトについては、委員の皆さんの意見で変えていくということはやぶさかではない。
- ・左岸工事用道路のなかで「四季と清流」というのはバラエティーを導入していこうという風な気持ちが当時あったと思う。季節を表現するアクセントを取り入れて「四季と清流」というイメージで左岸の道路が人々から納得していただけるような絵を提示してもらって、それを元に具体的な意見をだしてもらおうというような詰め方が考えられると理解している。

③事業概要について

- ・新白虹橋付近は宇治川の原風景を残す唯一の場所であり、新白虹橋をつくるのは非常に意義がある。新白虹橋は平成23年工事であるが、差し迫ったスケジュールの中、我々が望む新白虹橋ができるのか心配している。
- ・白虹橋が重要であることはこれまでの委員会でも言われてきた。新虹橋の委員会の回数を増やすという考えも意見として申し上げておく。事務局でもお考え頂きたい。

④左岸工事用道路について

- ・擁壁はコンクリートでよいのか。張出し構造でよいのかという議論が必要である。
- ・導水路を撤去した後に工事用道路を設置してはどうか。
- ・張り出し歩道が直線で人工的なイメージに思える。
- ・変化を持たせた方がよい。川というものは小石とか砂利があるものであって導水管があれば歩きにくいし、景観的にもよくない。
- ・河川法が平成9年に改正され「環境」が加わった。委員会が5年間中断しており、今回再開されたが、27年完成というのは急ぎすぎではないか。この工事では、環境をあまり考慮していないのではないか。
- ・必ずしも石がよいというわけではないため、石かコンクリートかの選定はもう少し議論が必要である。
- ・コンクリートでよいかをまず検討しないといけない。予算が無いからコンクリートでやるというのは納得できない。
- ・P12の写真の張り出し構造は直線的であり人工的なイメージに見える。P4に現在の景観を損なわないように保全するという一文にあるように、市民、観光客のためにも景観に配慮したものとなるようお願いしたい。
- ・年間にわたって宇治を散策される方にとってイメージダウンになるとなるため、自然になじまないのなら工事用道路というのがわかるようにしてもらいたい。
- ・委員会の公表について検討願いたい。